

ゆたかにかえる。先見と行動

ヤマスポ

教育の町かいせい 文化の町かいせい



大塚寿昭さん 略歴

1949年生れ、1973年
日本アイ・ビー・エム(株)入社、
大学講師などを経て2003年から
2007年まで総務省CIO補佐官。
現在、(一財)国際平和協会評議員。

縁あって、知り合いになりま
した元総務省情報化統括責任者
(CIO)補佐官の大塚寿昭さん
に「開成町の印象」を伺いまし
た。
高知県生まれで、長らく海外
で生活された同氏にとつて、開
成町は風景が美しく、水が美味
しいことが非常に魅力的であ
り、「住みたい」と感じていた
だけの町なのです！そして、例
えば空き家などを利用して芸術
家(の卵)に移り住んでいただ
くことを積極的に働きかけるこ
とで、文化の町を創出できる可
能性が十分にある！と推奨して
くださっております。
国として少子高齢・人口減少
社会に既に突入している中で、
「令和」の新时代は、経済的な
ゆたかさもさることながら、「心
のゆたかさ」が求められてくる
と考えられます。
「教育の町かいせい」は、文化・
芸術の面でも魅力を発信できる
可能性を秘めているとの評価は
有難く、今後、その可能性も是
非追求してみたいと思います。

開成町の印象

大塚様より開成町の印象を寄稿
いただきました。

開成町は山紫水明の地。10
数年前、初めて開成駅に降り
立った時に最初に胸に浮かんだ
言葉はこの「山紫水明」でした。
会社員時代の古い友人が退職
後、実家のある開成町に帰った
ことを知り、訪ねてみたことが、
この町とのご縁の始まりでし
た。

なるほど、飲み水がホントに
美味しくて、最初に抱いた印象
は間違いなかったと感心したと
同時に、なんとなく落ち着いた
町の佇まい、空気の清新さなど
に惹かれて何度も訪ねてくるう
ちに、すっかり私のお気に入り
の町になりました。

最近も友人を訪ねてみた際
に、この町は人口が増え続けて
いると聞き、驚いたと同時に嬉
しく思いました。私がこの町に
抱く印象は、住まいを構えるの
に適しているというだけでなく、
積極的にここに住みたいと思
う「何かがある」ということ
ですが、多くの人たちも(半ば
直感的に)わかっているんだ
なあと思えるのです。

開成町のキャッチフレーズは
「田舎モダン」という言葉だと
いうことを知りました。今の開
成町の佇まいを良く表している

ように思うのですが、外部の人
間としてその中身はどういうこ
とでしょうかと友人に尋ねて
も、いまひとつはつきりした答
えをいただけなかったのは残念
なことでした。

例えば芸術家や作家など高度
な知性を持つ人たちがその住居
を構え、さらにその人たちが
慕って若い芸術家たちが移り住
んでくる。あるいは現代社会で
最も先端を行く人工知能(AI)
に携わる人たちなども、研究に
は静かな落ち着いた環境を好む
ものです。美味しい水がいつで
も水道から飲める町、それだけ
でも魅力的に映るものなので
す。

こうした高度な知性を持つ
人々に積極的に働きかけ、文化
の町開成町となっていけば、「田
舎モダン」という言葉の実を
実らせることができるのではない
でしょうか？

良いキャッチフレーズがで
きたと満足しているのではな
く、その実を実現していくこと
が大切なことではないでしょ
うか？

